

令和4年度群馬県立高崎東高等学校1学期終業式式辞

皆さん、こんにちは。

いよいよ、明日から夏休みが始まります。まず2・3年生のみなさんには1学期始業式の時に、「儀式的行事」の話をしました。この1学期終業式も儀式的行事です。1年生には「儀式的行事」の話は初めてなので、繰り返しになりますが再度お話をさせてください。学校における「儀式的行事」は、生徒に「変化」を意識してもらうためにあります。1学期が終わり明日から夏季休業が始まる、という生活の変化を意識してもらうためにあるのです。そして、気持ちを新たにしたり、今までの取り組みの継続を強く意識するのに、この儀式的行事を活用してもらいたいと話しました。その際に「ちなみに終業式は、この新学期の当初に建てた目標が、ちゃんと実行されたかを振り返ったり、評価するためにある」とも話しました。そしてルーティンを作り、日々の生活の切り替えに利用してくださいということも1学期始業式の時に話しました。本校のホームページに私の始業式の内容が載っているので、忘れてしまったという人はホームページの「学校紹介・校長室より」を観てください。

2・3年生は4月に立てた目標は達成できましたか？1年生は高校入学の際に思ったこと、誓ったことができているですか？継続できましたか？ルーティンは作れましたか？ぜひ振り返ってみてください。もし達成できなかったのなら、どこに問題があったのかを考え、やり方を改めたり、新たな決意、目標に作り替えたりして、それを実行して行ってください。社会人はそれを「PDCAサイクル」と呼びます。「Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）」のことです。

最後に始業式の時にもう一つ話をしました。それは「校歌」です。コロナ禍で大きな声で校歌を歌うことはできずつぶやく程度しか歌えませんが、校歌によって自分は高崎東高校の一員であるという帰属意識を持つことができます。人間は「集団的な生き物」と言われます。家族であったり、クラスであったり、部活動であったり、ネット上のつながりであったりと形態は様々ですが、居心地のいい集団の中では人間は精神的な安定を得ることができます。人と人との絶つことのできないつながり日本人は「絆」と表現してきました。「絆」があれば人間は精神的に安定するし、前向きな意識を持つこともできます。機会は限られるかと思いますが、皆で校歌を歌うことにより「高東の絆」を育む一助にしたいと思います。

以上の話をもって、令和4年度1学期始業式の式辞とします。

令和4年7月20日

群馬県立高崎東高等学校 校長 関口 俊邦